



## 「社会学コース」と「メディアコース」 現代社会の諸課題に応える知的技法の修得

人間は一人で生きることができません。そして、人間が集まると社会が生まれます。その人間と社会をめぐるとさまざまな営みが、社会学という学問の対象です。とはいえ、人間も社会も常に変化しています。インターネットの普及、グローバル化が進み人々は国境を越えて移動、家族や夫婦の形も急速に変わりつつあります。社会学専攻では、「社会学コース」と「メディアコース」の2コースにおいて、社会学、メディア論、国際社会論をはじめ、隣接する人文・社会諸科学の成果を学ぶことによって、現代社会の諸問題を系統的に認識・解明する高度な学術研究の遂行能力を有する人材の育成を目指します。

「社会学コース」では、院生が調査研究を行う中心的な土台に社会学を据え、その他の社会科学諸分野の知見も取り入れながら多様な社会問題に取り組む研究者を養成します。「社会学コース」は多摩と市ヶ谷の2キャンパスで昼間授業を開講します。「メディアコース」では、メディア分野の高度専門職業人や研究者に求められる、メディア理論と調査法、メディアの歴史と思想、そして調査報道やメディアテクノロジー等の実践までを学ぶことができます。「メディアコース」は平日夜と土曜日に市ヶ谷キャンパスで授業を開講し、社会人が学びやすい環境を用意します。

社会学専攻の修了生は、大学など研究機関をはじめ、国内外の様々なメディア企業・国際機関・一般企業で活躍しています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
<p>社会学研究科では、社会学、隣接する社会科学、人文諸科学の分野に強い学問的関心を持つ、つぎのような人材を広く求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学、メディア論、国際社会論の領域で、社会の諸問題をめぐって独立した研究能力を形成する意欲のある人材。</li> <li>2. 社会についての豊かで深い学識を備え、メディア企業・国際機関・一般企業などで働く専門的職業人を目指す人材。</li> <li>3. 社会人としての経験をもとに、社会をめぐるとともに、社会を形成し、実践的に課題の解決に向かおうとする人材。</li> </ol>	<p>社会学研究科における教育研究は、現代社会の諸問題をそのなかで生きる人間のあり方に注目して解明し、目標にすべき価値と多様な社会生活の場でそれを実現する方法を探究することを、基本的な特徴としている。教育課程の編成と実施にあたっては、社会学を基本としながら、それに隣接する社会科学、人文諸科学の科目を配することによって、現代社会の諸問題と、そのなかで生きる人間のあり方に注目した教育研究を進める。</p>	<p>社会学研究科は、所定の単位の修得、および学位論文の審査によって、つぎに示す能力を有すると認められた者にたいして、修士課程にあつては「修士(社会学)」の、博士後期課程にあつては「博士(社会学)」の学位を授与する。</p> <p>社会学、メディア論、国際社会論はもとより、隣接する社会科学、人文諸科学の成果に基づいて現代社会の諸問題をみずからの研究課題として系統的に認識・解明し、それを実践的に向き合う高度な学術研究の遂行能力を有する。</p>

### 研究室紹介

三井 さよ 教授

ケアや支援を多層的なコミュニケーションがなされる場での  
相互行為として捉え返すことで、何が必要なケアや支援なのかを問い直す

#### 「助ける」図式の向こう側へ

私が研究対象としてきたのは、医療や看護、災害ボランティア、知的障害／自閉の人たちの地域生活支援などですが、共通して取り組んできたのは、ケアや支援を、一方的に「助ける」行為としてではなく、多層的なコミュニケーションがなされている場における相互行為として捉え返すことでした。たとえば個々のケア行為よりも「場」の方が、人を癒したり励ましたりする力を持っていることもあります。ある人が「ニーズ」を持つといっても、社会制度によってそう追い込まれているのであり、制度を変えることのほうが先決なこともあります。これからも、社会学とともに現場の発想を大切にしながら、みなさんと一緒に考えていければと思います。



## 柱となる2コース

- ・2つのコースにはそれぞれ基礎演習を入り口に個別領域のテーマにつながる講義・演習があります。
- ・これらの科目の多くは半期2 単位科目ですから、修士課程2 年間の間に計画的に履修できます。
- ・指導教員による論文指導のほか、総合演習を通じて複数の教員が修士論文作成に向けてアドバイスします。

### 社会学コース

「社会学基礎演習」で社会学理論・社会問題の基本概念を修得したあと、「理論社会学」でより深く個別の社会学理論を学びます。また、環境、家族、階層などに関する社会学研究の広がりを選び、実習を通じ社会調査の方法論を身に付けてもらいます。

### 社会学基礎演習

社会学の研究法に関する  
基本的知識の修得

理論的基礎	個別領域	方法
理論社会学 (ミクロ・マクロアプローチ、 学説史、認識論の基礎)	社会学特殊研究 (都市、産業、労働、家族、環境、 福祉、医療、文化などに関する 社会学研究)	統計分析法  社会調査実習  調査研究法  質的資料分析法

専門社会調査士資格((社)社会調査協会認定)が取得できます。

ただし、社会調査士資格未取得の場合には、他専攻科目として開講されている科目を履修する必要があります。

### メディアコース

「メディア社会学基礎演習」では基礎的なメディアの理論と歴史を学び、「メディア理論」で歴史・倫理・テクノロジーに関する理解を深めていきます。「メディア特殊研究」では広告、ソーシャルメディア、メディア文化などの個別領域を研究するとともに、「取材文章実習」、「調査報道実習」などでメディア分野の実践知を高めていきます。

### メディア社会学 基礎演習

基礎的なメディアの理論と歴史、  
メディア産業論、  
オーディエンス論の修得

理論	個別領域	方法
メディア理論 (歴史・倫理・テクノロジー)	メディア特殊研究 (広告、知的財産、メディア経営、 ソーシャルメディア、メディア 文化)	取材文章実習  調査報道実習  オーディエンス調査実習

### 学生・修了生の声

深谷 直弘 博士後期課程 2015年度修了

教員・先輩院生との距離が近く  
有益なアドバイスをもらうことができる

#### 社会学研究科の魅力

教員の数が多く、教員や先輩院生との距離が近いことが利点です。研究を深めたい学生は、教員・院生から有益なアドバイスを受けることができます。キャンパスは都心の市ヶ谷にもあるため、他大学院のゼミや研究会に顔を出しやすく、自分のテーマに近い研究者と交流しやすい、恵まれた環境です。

#### 目指す人へのメッセージ

大学院生活では毎週ゼミで発表を行い、並行して自分の研究を進めています。大変忙しく、苛酷な日々ですが、こうした現実を周囲の人からはほとんど理解してもらえません。それでも研究を「やりたい」という人は勇気を持って門を叩いてください。将来につながるかどうかは保証しませんが、大きな学びを得ることはできるはずです。



研究テーマ 文化社会学、地域社会学、社会調査法

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
青木 貞茂 教授	広告論、ブランド論	効果的なブランド広告表現の開発・立案方法について	※今年度は、特定の科目を担当しません
荒井 容子 教授	社会教育学	社会教育実践研究、社会教育法制度研究、成人教育・社会教育運動研究、公民館研究	社会学特殊研究 4
稲増 龍夫 教授	メディア文化論	現代メディア文化とコンテンツ産業の分析	メディア社会学特殊研究 2
宇野 斉 教授	組織行動科学、社会ネットワーク論、経営学	社会ネットワーク論、組織論、意思決定論	学際研究 4
大崎 雄二 教授	現代中国における国民統合・民族政策	現代中国（東アジア）地域研究	社会科学研究法 1/2
岡野内 正 教授	社会理論、国際政治経済学、平和学、国際開発学、中東研究	国際社会の人権・平和問題とベーシック・インカム研究	理論社会学 4
金井 明人 教授	認知科学・人工知能と映像の修辞学	映像に関する情報物語論	学際研究 2
金原 瑞人 教授	英語圏のエスニック文化	創作（クリエイティブライティング）。小説や詩の創作を通じて、表現力の向上を図る	※今年度は、特定の科目を担当しません
上林 千恵子 教授	産業社会学	日本の移民政策：外国人労働者と高度技能移民の受け入れ	社会学特殊研究 1、社会学原典講読、社会学原典研究 1、外国書講読 1/2（英語）
菊澤 佐江子 教授	家族社会学	家族とウェルビーイングに関する計量社会学的研究	社会学基礎演習 2
小林 直毅 教授	メディア文化研究、テレビ・アーカイブ研究	メディア環境における「記録と記憶」の研究	メディア社会学基礎演習 2、メディア理論 1
斎藤 友里子 教授	理論社会学・数理社会学・社会意識論	公共性の社会学：「秩序」の成り立ちについて考える	統計分析法、社会調査法 2
佐藤 成基 教授	社会学理論、比較ナショナリズム研究	ナショナリズムと国民国家の歴史と現在（ドイツを中心に）	理論社会学 3
鈴木 智之 教授	社会学理論、文化社会学	物語言説の社会学的分析。特に自己と他者をめぐる語りとその社会的条件の研究	理論社会学 2、社会学基礎演習 1/3
鈴木 宗徳 教授	社会学史、理論社会学	現代における批判的社会理論の課題	理論社会学 5、外国書講読 1/2（英語）
田嶋 淳子 教授	国際社会学、移民・エスニシティ研究	中国系移住者をめぐる文化的市民権と移住二世世代	社会学特殊研究 1、社会調査実習
津田 正太郎 教授	マスコミュニケーション論、政治社会学	近現代社会におけるメディアの役割に関する政治社会学的研究	メディア社会学基礎演習 1/3
徳安 彰 教授	社会システム論	社会現象を人間と社会システムの 2 つの視点から見る	理論社会学基礎 1/2
樋口 明彦 教授	コミュニティ政策論	社会的排除 / 社会的包摂、若者論、NPO / NGO、働き方の多様化	社会学特殊研究 2
平塚 眞樹 教授	教育学、若年移行期研究	若者支援における youthwork と social pedagogy の意味	※今年度は、特定の科目を担当しません
藤田 真文 教授	コミュニケーション論、メディア論	マス・メディア（テレビ）のテキスト（内容）分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
別府 三奈子 教授	ジャーナリズム規範の国際比較研究、写真研究	負の遺産とジャーナリズムの記録の連関に関する調査と分析	メディア理論 3
堀川 三郎 教授	環境社会学、都市社会学	歴史的環境保存の日米比較、まちづくり、住民運動、公害被害地の追跡調査	社会学特殊研究 3、社会学原典研究 2、外国書講読 1/2（英語）
三井 さよ 教授	臨床社会学、ケア・支援論	医療・福祉をめぐる社会問題への相互行為論的アプローチ	質的資料分析法、社会調査法 3
吉村 真子 教授	アジア研究、東南アジア地域研究	国際社会 / 東南アジア（マレーシア）地域研究	※今年度は、特定の科目を担当しません

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
堅田 香緒里 准教授	社会政策、福祉社会学	貧困研究、批判的社会政策論、ジェンダー・スタディーズ	社会学特殊研究 2
高 美智 准教授	映画・表象文化研究	日本映画におけるマイノリティ、ナショナリズム、多文化、ジェンダー表象、アダプテーション映画	メディア理論 2
白田 秀彰 准教授	情報法、知的財産権法	情報化社会と情報発信についての研究	メディア特殊研究 3
愼 蒼宇 准教授	近現代史	朝鮮近現代史、日朝関係史、植民地研究、在日朝鮮人史研究	学際研究 3
鈴木 智道 准教授	歴史社会学、教育社会学	教育の歴史社会学、歴史社会学方法論	社会学特殊研究 4
多喜 弘文 准教授	社会階層論、教育社会学、比較社会学	教育・労働の格差に関する比較社会学的研究	理論社会学 1
土橋 臣吾 准教授	メディア論、コミュニケーション論	デジタルメディアの実践的研究	オーディエンス調査実習
二村 まどか 准教授	国際関係論、平和構築論	紛争後の社会における正義追求のあり方について（移行期正義・国際刑事裁判）	学際研究 1
藤代 裕之 准教授	ジャーナリズム論、ソーシャルメディア論	ソーシャルメディア時代のジャーナリズムやメディアのあり方 / Entrepreneurial Journalism	メディア特殊研究 4
諸上 茂光 准教授	消費者心理学、計算論的脳科学	市場における消費者の心理及び行動の分析とモデル化	メディア社会学特殊研究 1

[2018年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目 [修士課程]

社会学基礎演習 1～3 (各 2)  
 メディア社会学基礎演習 1～3 (各 2)  
 理論社会学 1～5 (各 2)  
 メディア理論 1～5 (各 2)  
 理論社会学基礎 1/2 (各 2)  
 社会学特殊研究 1～6 (各 2)  
 メディア特殊研究 1～4 (各 2)  
 メディア社会学特殊研究 1/2 (各 2)  
 学際研究 1～5 (各 2)  
 統計分析法 (2)  
 社会調査実習 (4)  
 調査研究法 (2)  
 質的資料分析法 (2)  
 取材文章実習 (2)  
 調査報道実習 1/2 (各 2)  
 オーディエンス調査実習 (2)  
 メディアテクノロジー実習 (2)  
 社会科学研究法 1/2 (各 2)  
 外国書講読 1/2 (各 2)  
 社会学原典講読 (2)  
 論文指導 1/2 (各 2)

[2018年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

設置科目 [博士後期課程]

社会学総合演習 A/B (各 2)  
 社会学研究 1～3 (各 2)  
 社会調査法 1～3 (各 2)  
 社会学原典研究 1/2 (各 2)  
 博士論文指導 I A/B (各 2)  
 博士論文指導 II A/B (各 2)  
 博士論文指導 III A/B (各 2)

修士生の研究テーマ

- ・みえにくい問題経験をやりくりする - 「生きづらさ」を手掛かりとした調査から
- ・人口を統制すること - 日本社会における人口概念の展開 -
- ・リチャード・セネットにおける「公共的なもの」の概念
- ・今日において就労運動を振り返る意義 - その「関係」観 / 「ニーズ」観からの検討 -
- ・非正規雇用の基幹化と働き方への影響 - 劣悪な働き方の再生産メカニズム -
- ・日本における外国人の社会統合に関する研究 - 自治体レベルの取り組みに着目して -
- ・ニューカマーズとしての中国系移住者のエスニック・コミュニティに関する一考察
- ・核の表象と経験、そして記憶 - テレビの記録と技術としてのアーカイヴ -
- ・「聖地」奈良への動員 - “建国神話の体現者たち” -
- ・本屋大賞のブランディング分析
- ・日本の新聞における中国の環境問題報道
- ・日本のテレビにおける「八月ジャーナリズム」 - 戦後 70 年を中心に -
- ・原発震災と「3月ジャーナリズム」の課題と可能性
- ・「普通である」ための技法 - セクマイ・コミュニティと「当事者である/ない」ことをめぐって -
- ・近代朝鮮における教育改革と書堂 (1876-1905) - その重層的把握への試み -
- ・内モンゴル農村地域におけるモンゴル族男性の結婚難問題に関する研究 - 通遼市ホルチン左翼後旗の 7 つの村を中心に -